

Ⅱ 作物別作付（栽培）面積

1 水陸稲（子実用）

(1) 水稲

平成29年産水稲（子実用）の作付面積は146万5,000haで、前年産に比べ1万3,000ha（1%）減少した（表5）。

作付面積の動向をみると、昭和44年の317万3,000haを最高に、昭和45年以降は生産過剰基調となった米の需給均衡を図るための生産調整が実施されたこと等から、減少傾向で推移している（図4）。

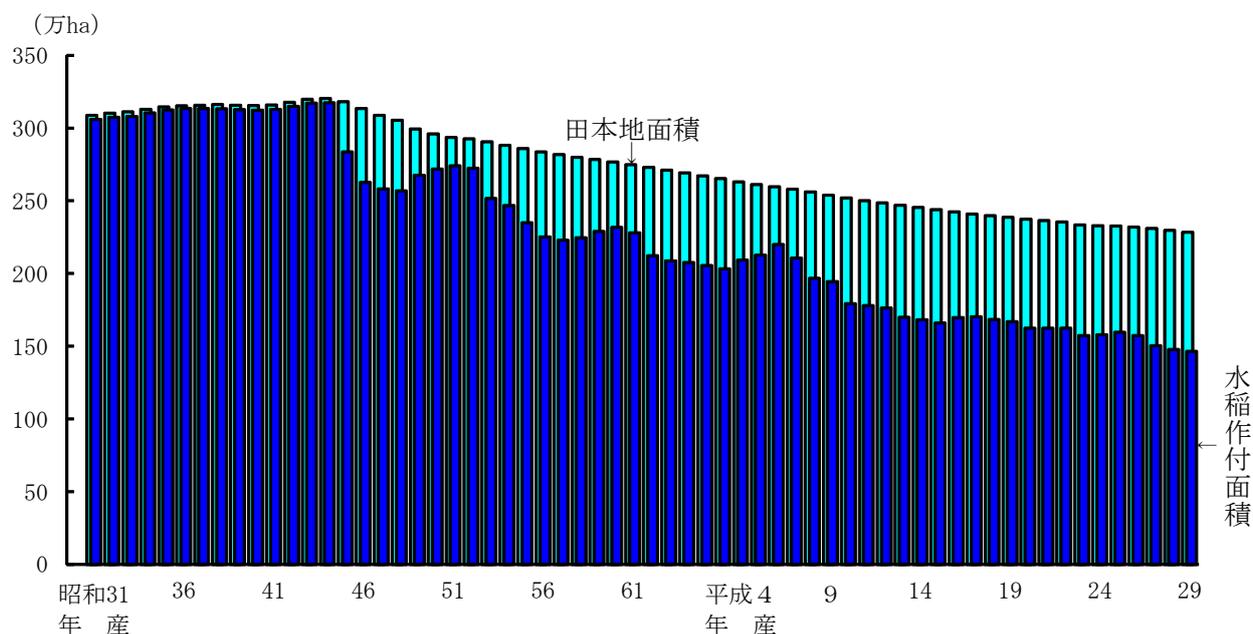
(2) 陸稲

平成29年産陸稲（子実用）の作付面積は813haで、前年産に比べ131ha（14%）減少した（表5）。

表5 平成29年産水陸稲（子実用）作付面積（全国農業地域別）

全 国 農 業 地 域	水陸稲計			水 稲			陸 稲		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	1,466,000	△13,000	99	1,465,000	△13,000	99	813	△ 131	86
北 海 道	103,900	△ 1,100	99	103,900	△ 1,100	99	0	0	nc
都 府 県	1,362,000	△12,000	99	1,361,000	△12,000	99	813	△ 131	86
東 北	374,800	△ 1,100	100	374,800	△ 1,100	100	2	△ 3	40
北 陸	204,100	△ 1,500	99	204,100	△ 1,500	99	2	0	100
関 東・東 山	269,300	△ 2,200	99	268,500	△ 2,000	99	805	△ 127	86
東 海	92,400	△ 1,000	99	92,400	△ 1,000	99	1	0	100
近 畿	103,200	△ 1,300	99	103,200	△ 1,300	99	-	-	nc
中 国	104,300	△ 1,700	98	104,300	△ 1,700	98	-	-	nc
四 国	49,900	△ 1,000	98	49,900	△ 1,000	98	-	-	nc
九 州	163,100	△ 2,600	98	163,100	△ 2,600	98	3	△ 1	75
沖 縄	727	△ 58	93	727	△ 58	93	-	-	nc

図4 水稲（子実用）作付面積の推移



2 麦類（子実用）

(1) 4麦計

平成29年産4麦（子実用）の作付面積は27万3,700haで、前年産に比べ2,200ha（1%）減少した（表6）。

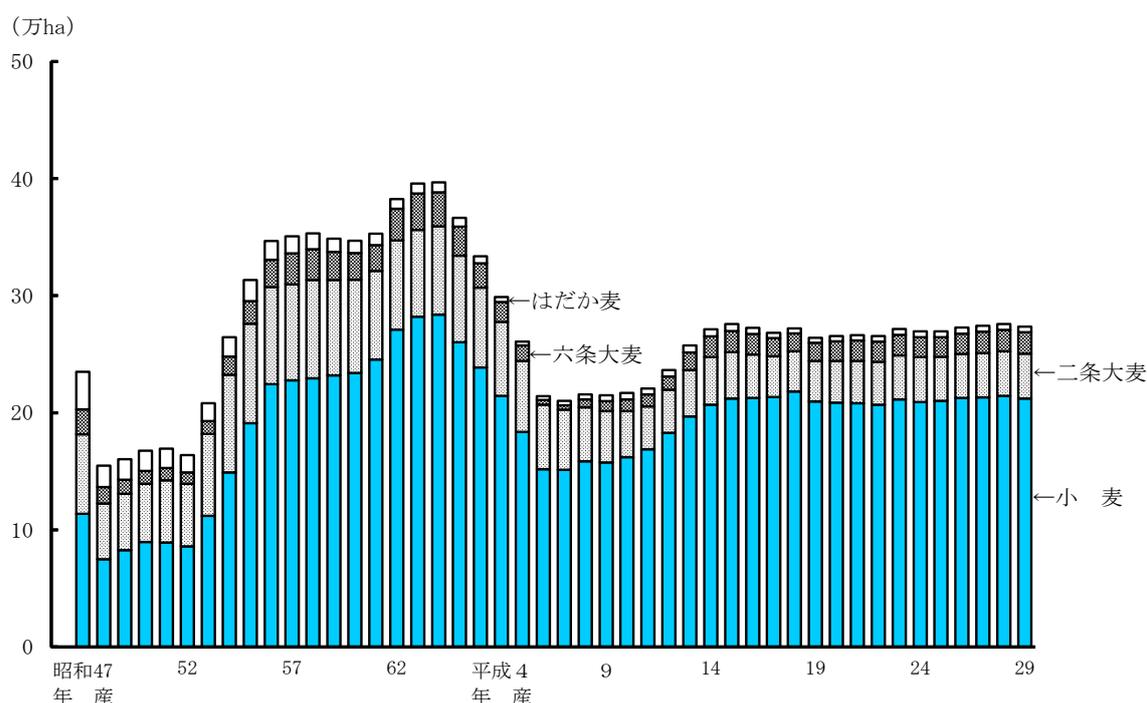
麦種別には、二条大麦は100ha増加したものの前年産並みで、小麦及び六条大麦は前年産に比べてそれぞれ2,100ha（1%）、100ha（1%）減少し、はだか麦は20ha減少したものの前年産並みとなった。

作付面積の動向をみると、作付農家数の減少、水田裏作の減少等により昭和48年に15万4,800haと過去最低となった。その後、麦の生産振興策が講じられたこと、米の転作作物として田作小麦が増加したこと等により、平成元年には39万6,700haとなった。平成2年以降は水田裏作の減少等により再び減少し、平成7年には21万200haとなった。平成8年以降は米の需給調整対策の推進等に伴い再び増加傾向で推移したが、平成14年以降はほぼ横ばいとなっている（図5）。

表6 平成29年産4麦（子実用）作付面積（田畑別）

区 分	計			田			畑		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
4 麦 計	273,700	△ 2,200	99	171,600	△ 1,600	99	102,100	△ 500	100
小 麦	212,300	△ 2,100	99	115,500	△ 1,500	99	96,800	△ 600	99
二条大麦	38,300	100	100	34,900	△ 100	100	3,410	170	105
六条大麦	18,100	△ 100	99	16,300	△ 200	99	1,760	△ 30	98
はだか麦	4,970	△ 20	100	4,800	△ 20	100	175	6	104

図5 4麦（子実用）作付面積の推移



(2) 麦種別作付面積

ア 小麦

小麦の作付面積は21万2,300haで、前年産に比べ2,100ha（1%）減少した。

このうち、北海道は12万1,600haで、前年産に比べ1,300ha（1%）減少した。

また、都府県は9万700haで、他作物への転換等があったことにより、前年産に比べ800ha（1%）減少した（表7）。

イ 二条大麦

二条大麦の作付面積は3万8,300haで、前年産並みとなった（表7）。

ウ 六条大麦

六条大麦の作付面積は1万8,100haで、他作物への転換等があったことにより、前年産に比べ100ha（1%）減少した（表7）。

エ はだか麦

はだか麦の作付面積は4,970haで、前年産並みとなった（表7）。

表7 平成29年産4麦（子実用）作付面積（全国農業地域別）

全国 農業地域	4麦計			小麦			二条大麦			六条大麦			はだか麦		
	作付 面積	前年産との比較		作付 面積	前年産との比較		作付 面積	前年産との比較		作付 面積	前年産との比較		作付 面積	前年産との比較	
		対差	対比												
	ha	ha	%												
全 国	273,700	△ 2,200	99	212,300	△ 2,100	99	38,300	100	100	18,100	△ 100	99	4,970	△ 20	100
北 海 道	123,400	△ 1,200	99	121,600	△ 1,300	99	1,720	30	102	x	x	x	35	16	184
都 府 県	150,400	△ 900	99	90,700	△ 800	99	36,600	100	100	18,100	△ 100	99	4,940	△ 30	99
東 北	8,230	110	101	7,040	100	101	x	x	x	1,180	0	100	1	x	x
北 陸	10,500	△ 100	99	376	63	120	9	2	129	10,100	△ 200	98	x	x	x
関 東・東 山	38,700	300	101	21,100	100	100	12,600	200	102	4,950	△ 130	97	96	41	175
東 海	16,600	△ 100	99	15,900	△ 100	99	2	△ 4	33	681	16	102	14	12	700
近 畿	10,500	△ 100	99	9,270	△ 80	99	154	△ 4	97	1,030	85	109	x	x	x
中 国	5,700	100	102	2,290	80	104	2,820	△ 20	99	91	x	x	502	38	108
四 国	4,700	110	102	2,050	130	107	30	x	x	x	x	x	2,620	△ 20	99
九 州	55,400	△ 1,200	98	32,700	△ 1,100	97	21,100	△ 100	100	12	x	x	1,630	△ 40	98
沖 縄	x	x	x	23	△ 4	85	x	x	x	-	-	nc	-	-	nc

3 かんしょ

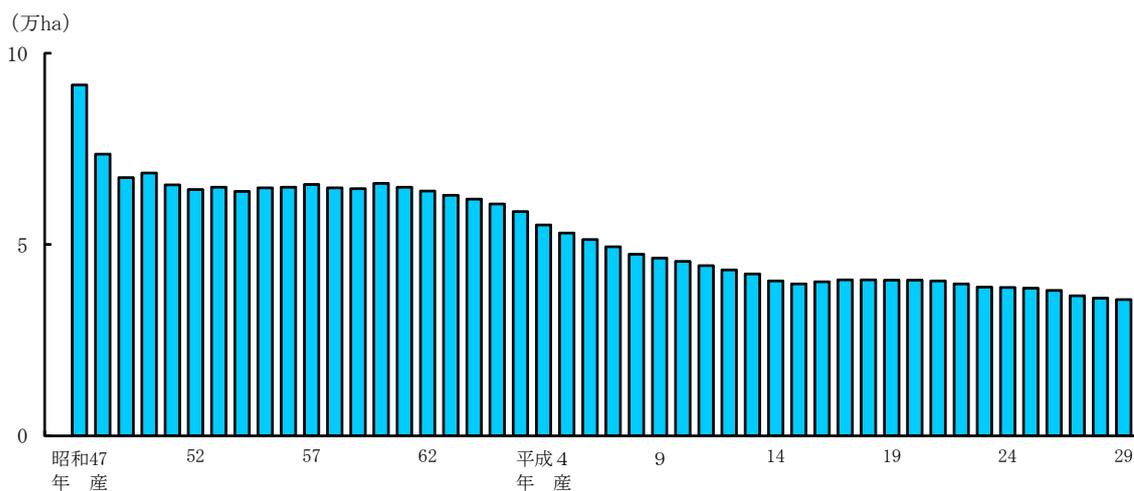
平成29年産かんしょの作付面積は3万5,600haで、前年産に比べ400ha（1%）減少した（表8）。

作付面積の動向をみると、昭和50年以降は漸減傾向で推移している（図6）。

表8 平成29年産かんしょ作付面積（全国農業地域別）

全 国 農 業 地 域	計			田			畑		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	35,600	△ 400	99	2,680	△ 10	100	32,900	△ 400	99
北 海 道	23	4	121	6	1	120	17	3	121
都 府 県	35,600	△ 400	99	2,670	△ 20	99	32,900	△ 400	99
東 北	195	△ 12	94	31	1	103	164	△ 13	93
北 陸	672	△ 13	98	90	△ 5	95	582	△ 8	99
関 東・東 山	12,100	△ 100	99	360	3	101	11,800	△ 100	99
東 海	1,370	△ 100	93	87	△ 3	97	1,280	△ 100	93
近 畿	707	△ 28	96	366	△ 12	97	341	△ 16	96
中 国	788	△ 39	95	160	△ 5	97	628	△ 34	95
四 国	1,910	△ 60	97	237	△ 8	97	1,670	△ 50	97
九 州	17,500	△ 100	99	1,340	20	102	16,200	0	100
沖 縄	281	△ 13	96	2	0	100	279	△ 13	96

図6 かんしょ作付面積の推移



4 そば（乾燥子実）

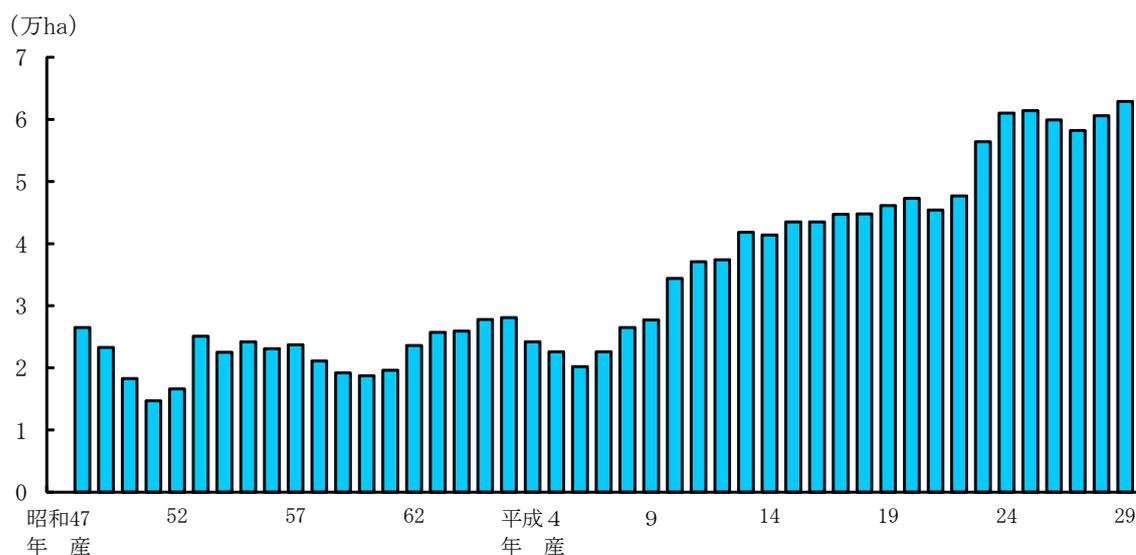
平成29年産そばの作付面積は6万2,900haで、前年産に比べ2,300ha（4%）増加した（表9）。

作付面積の動向をみると、昭和61年以降増加傾向で推移した後、米の生産調整目標面積の緩和措置等により平成4年から平成6年までは減少した。平成7年以降は米の需給調整対策の推進等により再び増加傾向で推移しているものの、平成26年及び平成27年は減少した（図7）。

表9 平成29年産そば（乾燥子実）作付面積（全国農業地域別）

全 国 農 業 地 域	計			田			畑		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比		対 差	対 比		対 差	対 比
	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%
全 国	62,900	2,300	104	38,100	600	102	24,800	1,700	107
北 海 道	22,900	1,400	107	9,040	350	104	13,900	1,100	109
都 府 県	39,900	900	102	29,000	200	101	10,900	600	106
東 北	16,800	400	102	13,000	300	102	3,820	130	104
北 陸	6,010	△ 150	98	5,440	△ 150	97	565	△ 4	99
関 東・東 山	11,200	700	107	6,010	210	104	5,200	500	111
東 海	553	6	101	449	△ 6	99	104	12	113
近 畿	921	△ 6	99	887	x	x	34	x	x
中 国	1,690	10	101	1,450	10	101	234	△ 5	98
四 国	142	△ 3	98	77	△ 1	99	65	△ 2	97
九 州	2,610	20	101	1,760	△ 20	99	851	42	105
沖 縄	56	△ 5	92	-	-	nc	56	△ 5	92

図7 そば（乾燥子実）作付面積の推移



5 豆類（乾燥子実）

(1) 大豆

平成29年産大豆の作付面積は15万200haで、前年産並みとなった（表10）。

作付面積の動向をみると、外国産大豆の輸入の増加により減少傾向で推移していたが、昭和53年から米の転作作物として田作大豆を中心に増加した。その後、昭和63年以降は減少傾向で推移し、平成6年には過去最低の6万900haとなった。平成7年から平成15年までは米の需給調整対策の推進等から再び増加傾向で推移し、平成16年以降は上下動のある動きとなっていたものの、平成26以降は上昇傾向で推移している（図8）。

(2) 小豆

平成29年産小豆の作付面積は2万2,700haで、前年産に比べ1,400ha（7%）増加した（表10）。

このうち、北海道における作付面積は1万7,900ha（全国の約8割）で、いんげんからの転換等により、前年産に比べ1,700ha（10%）増加した。

(3) いんげん

平成29年産いんげんの作付面積は7,150haで、前年産に比べ1,410ha（16%）減少した（表10）。

このうち、北海道における作付面積は6,630ha（全国の約9割）で、小豆等への転換等により、前年産に比べ1,310ha（16%）減少した。

(4) らっかせい

平成29年産らっかせいの作付面積は6,420haで、前年産に比べ130ha（2%）減少した（表10）。

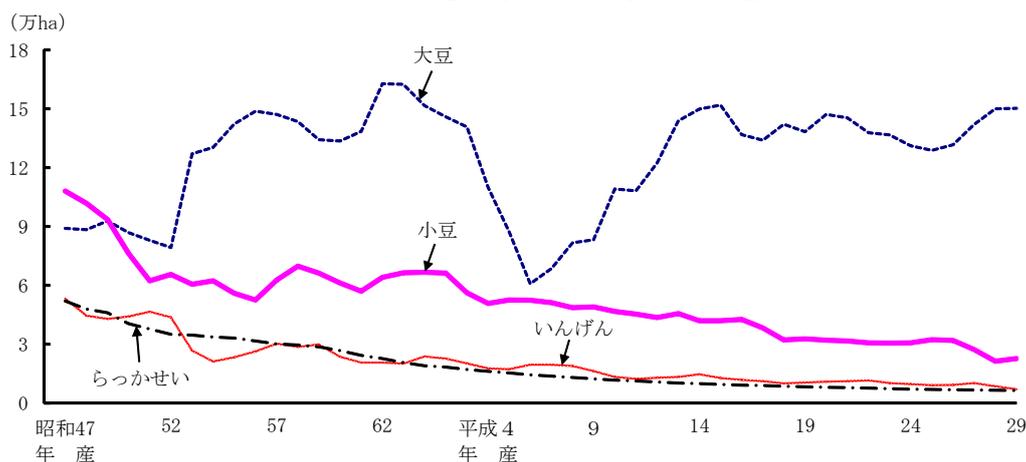
このうち、千葉県の作付面積は5,080ha（全国の約8割）で、前年産に比べ90ha（2%）減少した。

表10 平成29年産豆類（乾燥子実）作付面積（全国農業地域別）

区 分	大 豆											
	全国	北海道	都府県	東北	北陸	関東・東山	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄
作付面積(ha)	150,200	41,000	109,200	36,300	13,500	10,500	12,100	9,880	4,740	557	21,700	0
対前年差(ha)	200	800	△ 700	400	100	△ 200	△ 100	40	△ 150	△ 31	△ 500	△ 1
対前年比(%)	100	102	99	101	101	98	99	100	97	95	98	0

区 分	小 豆					いんげん		らっかせい		
	全国	北海道	滋賀	京都	兵庫	全国	北海道	全国	茨城	千葉
作付面積(ha)	22,700	17,900	52	461	690	7,150	6,630	6,420	561	5,080
対前年差(ha)	1,400	1,700	1	△ 32	△ 9	△ 1,410	△ 1,310	△ 130	△ 26	△ 90
対前年比(%)	107	110	102	94	99	84	84	98	96	98

図8 豆類（乾燥子実）作付面積の推移



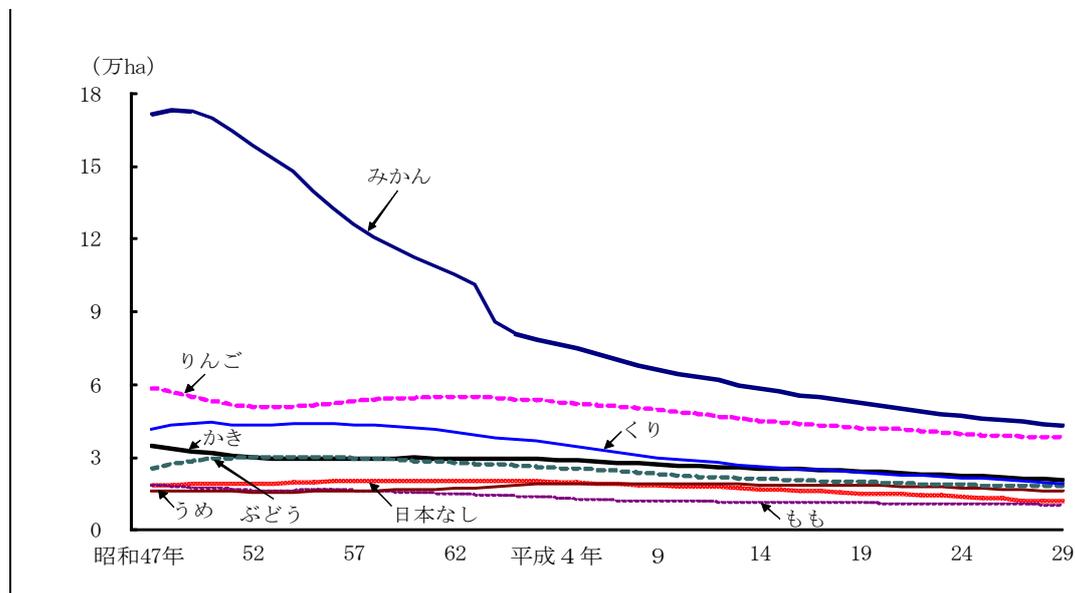
6 果樹

平成29年果樹の主な品目別の栽培面積は、みかんは4万2,800ha、りんごは3万8,100ha、かきは2万300ha、くりは1万9,300haで、それぞれ前年に比べ1,000ha（2%）、200ha（1%）、600ha（3%）、500ha（3%）減少した（表11）。

表11 平成29年果樹栽培面積

区分	栽培面積	前年との比較		区分	栽培面積	前年との比較	
		対差	対比			対差	対比
	ha	ha	%		ha	ha	%
みかん	42,800	△ 1,000	98	すもも	3,000	△ 10	100
その他かんきつ類	26,000	△ 300	99	おうとう	4,700	△ 40	99
りんご	38,100	△ 200	99	うめ	15,900	△ 500	97
日本なし	12,100	△ 400	97	ぶどう	18,000	0	100
西洋なし	1,550	△ 20	99	くり	19,300	△ 500	97
かき	20,300	△ 600	97	パイナップル	542	2	100
びわ	1,270	△ 90	93	キウイフルーツ	2,100	△ 30	99
もも	10,400	△ 100	99				

図9 主要果樹の栽培面積の推移



7 茶

平成29年茶の栽培面積は4万2,400haで、前年に比べ700ha（2%）減少した（表12）。

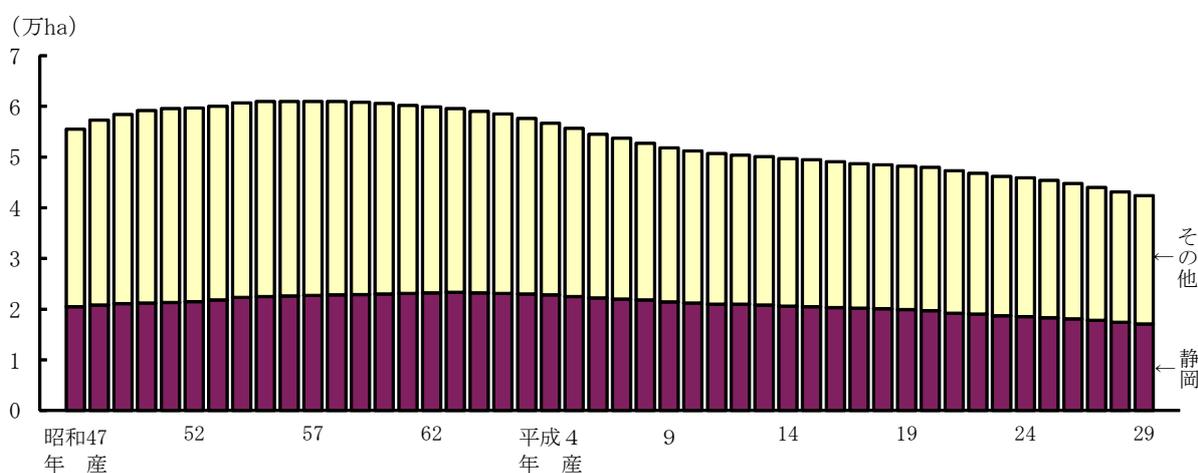
栽培面積の動向をみると、昭和50年代半ばまでは増加傾向で推移していたものの、それ以降は漸減傾向で推移している。

なお、主産地である静岡県においても、近年全国と同様に漸減傾向で推移している（図10）。

表12 平成29年茶栽培面積

区 分	栽培面積	前年との比較	
		対 差	対 比
茶	42,400 ha	△ 700 ha	98 %

図10 茶栽培面積の推移



8 飼料作物、えん麦（緑肥用）

(1) 飼料作物の作付（栽培）面積計

平成29年産飼料作物の作付（栽培）面積は98万5,100haで、前年産並みとなった（表13）。

ア 牧草

牧草の作付（栽培）面積は72万8,300haで、前年産に比べ6,900ha（1%）減少した。

イ 青刈りとうもろこし

青刈りとうもろこしの作付面積は9万4,800haで、前年産に比べ1,400ha（1%）増加した。

ウ ソルゴー

ソルゴーの作付面積は1万4,400haで、前年産に比べ400ha（3%）減少した。

(2) えん麦（緑肥用）

えん麦（緑肥用）の作付面積は4万3,700haであった（表13）。

表13 平成29年産飼料作物、えん麦（緑肥用）作付（栽培）面積（全国農業地域別）

全 国 農 業 地 域	飼料作物計			牧 草			青刈りとうもろこし			ソルゴー			えん麦（緑肥用）		
	作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較		作 付 面 積	前年産との比較	
		対 差	対 比												
ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%	ha	ha	%	
全 国	985,100	△ 3,300	100	728,300	△ 6,900	99	94,800	1,400	101	14,400	△ 400	97	43,700	nc	nc
北 海 道	593,800	△ 1,300	100	535,000	△ 3,500	99	55,100	2,100	104	-	-	nc	40,100	nc	nc
都 府 県	391,300	△ 2,000	99	193,300	△ 3,400	98	39,700	△ 700	98	14,400	△ 400	97	3,590	nc	nc
東 北	134,600	△ 2,300	98	85,300	△ 1,600	98	10,800	△ 100	99	127	4	103	1,630	nc	nc
北 陸	11,900	500	104	3,160	△ 100	97	246	△ 21	92	115	△ 7	94	x	nc	nc
関 東・東 山	68,100	△ 1,300	98	19,000	△ 500	97	13,600	△ 100	99	1,560	△ 60	96	1,380	nc	nc
東 海	15,600	100	101	4,990	△ 170	97	829	△ 5	99	615	△ 34	95	47	nc	nc
近 畿	5,390	250	105	1,440	0	100	176	x	x	908	△ 31	97	x	nc	nc
中 国	21,000	0	100	9,830	△ 70	99	1,720	△ 30	98	1,400	△ 50	97	49	nc	nc
四 国	5,570	△ 140	98	1,420	△ 30	98	396	△ 5	99	521	△ 22	104	2	nc	nc
九 州	123,200	600	100	62,400	△ 800	99	12,000	△ 300	98	9,130	△ 200	98	x	nc	nc
沖 縄	5,800	20	100	5,750	20	100	1	0	100	37	7	123	-	nc	nc

注：飼料作物とは、牧草、青刈りとうもろこし、ソルゴーのほか、その他飼料作物（飼料用米等）を含めた合計である。

(万ha)

図11 飼料作物作付（栽培）面積の推移

